

新入生へのメッセージ

奈良大学のキャンパスに吹く風にも暖かさを感じるようになり、新たな門出にふさわしい季節となりました。この春、本学には通信教育部、文学部及び社会学部、大学院合わせて 981 名が入学されました。奈良大学を代表して、皆さんの入学を心よりお祝い申し上げます。大学、あるいは、大学院への入学・進学に向けて一生懸命に取り組んでこられたことと思いますが、その努力に対しまして敬意を表しますとともに、皆さんを支えてこられた御家族や関係者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

さて、この度は入学式という、学生生活における重要な節目に当たる式典を中止するという重大な判断をいたしましたこと、まずはお詫び申し上げます。

入学式は、皆さんがこれまで歩んでこられた道程を振り返るとともに、次の新たな希望に満ちたステージへの第一歩となる記念すべき日であり、人生の区切りとして記憶に残る大切な一日です。とりわけ新入生の皆さん、そしてご家族、関係者の皆様にとっては、心待ちにされていた式典が開催されないことは、言葉にならない程の大きなショックであり、とても残念なことだと思います。

しかし、新型コロナウイルスの感染がなおも国内外で拡大し、3月後半に入ってから、日本国内での感染が新たなフェーズに入ったとみられる現在の厳しい状況下で慎重に検討してまいりました結果、学生各位の感染リスクと感染拡大を防ぐ社会的責任の観点から、式典を実施することは極めて困難であり、学生・教職員、関係各位の健康・安全を最優先に考え中止という苦渋の決断を取ることとなりました。このような厳しい結論になりましたこと、ご理解いただき

ますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。式典は中止といたしますが、私たち教職員一同は、新入生の皆さんのご入学を心より歓迎いたします。

さて、本学のキャンパスは、奈良市北西部ののどかな丘陵地に位置しており、豊かな自然と歴史遺産・伝統文化が息づく古都奈良、その全てが本学の学びのフィールドとなっています。隣接する関西文化学術研究都市では、新産業やイノベーションが創出され、新文化などの発信拠点となっており、この地は古代と最先端がクロスオーバーする所でもあります。奈良という恵まれた環境と京都、大阪に近いという本学の立地条件のもと、喧騒とした都会では決して味わえない、ゆっくりした時間の流れの中で豊かな大学生活を過ごしていただけるものと思っております。また、あまり知られておりませんが、奈良市は全国でもトップクラスの貯蓄・消費水準を誇り、その一方で物価が最も安いという経済的にとても暮らしやすい所です。

1300年以上の歴史が息づくこの地に、奈良大学が誕生したのは1969年のことで、昨年創立50周年記念式典を終え、今年から新たな半世紀に向けての飛躍の時代が始まったところです。これまで2万6千人以上の卒業生を社会に送り出し、それぞれ様々な分野で活躍しておられます。現在、文学部4学科と社会学部2学科、さらに大学院2研究科および通信教育部が置かれ合計約3600名の学生が在籍し、日々学業に励んでいます。

文学部では、古都奈良の歴史遺産と伝統文化という本物の研究素材を目の前に、本物に触れ、感じる「生きた学問」の実践に取り組みながら、俯瞰的な視野と深い専門性を備えつつ、自ら考え、実社会で役立つ力を身につけ、主体的に行動できる人材を育成しております。一方、社会学部では、社会学・経済学・心理学を中心に、人間とは何か、人間と人間の関係、個人と社会の相互的關係、さらには、グロ

ーバル化した現代社会のさまざまな現象や課題をテーマに、実践的な教育・研究が行われ問題発見・解決型の人材を社会に輩出してきました。2005年には、学びを志す全ての人により広く門戸を開くとともに、高齢社会を見据え、生涯学習時代にふさわしい通信教育部（文学部文化財歴史学科）が開設され、10代から80代までの多様な学生の皆さん約1240名が在籍しておられます。

本学は、さまざまな学生が畿内はじめ、北は北海道から南は沖縄まで、すべての都道府県から入学している全国区の大学となっている点が特徴ですが、創立以来これら学生の皆さんに対しては、入学から卒業に至るまで「一人ひとりの学生を大切に」きめ細やかな暖かい教育を実践しています。

さて現代社会の情報化は、今から約40年前世界的なベストセラーとなった『第三の波』の著者として知られる米国の著名な未来学者アルビン・トフラーの予言をはるかに超える形で進化し続けています。AI(人工知能)、ICT(情報通信技術)IoT、ロボット、ビッグ・データなどによる第4次産業革命が急速に進み、そうした第4次産業革命の波は、我々が想像する以上のスピードで押し寄せてきています。政府は、人類史上狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな5番目の社会像としてSociety5.0(超スマート社会)を提唱し、世界に先駆けて実現していくことを目標としています。その前兆は、私たちの身近なところでみられるようになってきています。メガバンクでは、融資など定型業務への自動化ロボの導入による業務の減少等により新卒採用がピーク時の3分の1に減少、外食チェーンでの案内役としてのヒト型ロボット導入、議会での議事録作成の自動化、コールセンターでの導入、就活でのAI面接・ES審査など急速にAI導入は拡大しています。一方、高等教育機関の学生を中心とした年25万人規模の文理融合のAI人材育成などの政府戦略により、皆様が卒業される頃には就職状況も大きく変化してく

る可能性があります。経団連【採用と大学教育の未来に関する産学協議会】の

「Society5.0人材育成文科会」では、2019年の中間とりまとめでSociety5.0時代に学生に求められる能力として①リテラシー（数理的推論・データ分析力・論理的
文章表現力・外国語コミュニケーション力など）、②論理的思考力と規範的判断
力、③課題発見・解決力、④未来社会の構想・設計力、⑤高度専門職に必要な知識
と能力の5つが求められるとしています。

この急激に、しかも大きく変化する時代にどう向き合い、いかに課題を解決して
いくかは、わたくしたち一人一人のたゆまない努力と研鑽にゆだねられています。
これから奈良大学で学ばれる知識と経験、技能を基に、これらの諸課題に果敢に挑
戦していただくことを期待いたします。

大学は、勉学や部活・サークル活動等、皆さん方が学びたいこと、やりたいこと
をなんでもチャレンジできる自由な場であり、将来に向けて自分自身で計画を立て、
実行していく自主性と同時に自己責任が強く求められる場所でもあります。大学で
は専門的な知識を身につけるだけでなく、それを論理的に考え、活用するために必
要な幅広い教養を学ばなければなりません。大学で身につける専門知識や技能を活
かして社会で活躍していくためには、さまざまな課題への適応力や問題解決能力を
身につけることが必要不可欠になります。イギリスの経済学者アルフレッド・マー
シャルがケンブリッジ大学での教授就任演説で言った「冷静な頭脳と、しかし暖か
い心をもって」という言葉は有名ですが、経済学を越えて私たちの周りの様々な社
会的苦難の解決に当たっては、この心構えは極めて重要かと思えます。

最後に、入学された皆様は、新たに始まる大学生活に対しては期待や希望がある
とともに不安もあるかと思いますが、今日から新たな目標に向かって、自己研鑽に
励み、充実した学生生活を送ってくださることを期待しています。皆さんが主体的
な学修を通して、人として成長し、4年後に世界で活躍できる人材として巣立って

いかれることを祈念して、私の祝辞といたします。

令和二年四月二日

奈良大学長 清水哲郎